

過去から学ぶ【第3回】海旅業界関西シニア会に聞く！ 海外旅行自由化40周年企画-40年前の海外旅行業界とは 航空業界の営業事情

今回で3回目となる40年前の海外旅行業界の実態を関西シニア会会員のリレー方式で振り返るこのコーナー。今回は航空会社の営業活動について、パン・アメリカン航空、ユナイテッド航空で活躍した福井功氏にご登場いただいた。旅行会社の業務は航空会社と密接に関わる部分も多く、こうした視点から海外旅行業界の事情を振り返って頂いた。(編集部)

コンピュータのない航空業界

40年前の航空業界とは、「コンピュータ」なるものがまだ、存在しなかった時代である。航空運賃を算出するには分厚い tariffs を広げ、飛行マイルを調べ、適切な運賃を組み合わせる。これらの作業を行って、最も安い運賃をはじきだす。

出発地と到着地

だけの単純往復とパンナム時代の福井功氏

いう旅程なら、誰にでも tariffs を調べれば何も問題なく運賃を探す事が出来る。しかし、経由地が多く、複雑な往復を含む地点が旅程に絡み合う場合の運賃算出には、相当な経験と知識、そして努力が要求される。いかに安い運賃を出すかもポイントだ。同じ行程でも計算方法によって幾通りもの運賃が生まれるのが当たり前の時代であったのだ。

そこでわれわれ、営業マンは旅行代理店を周り、お客様の旅程に対する運賃計算を手助けし、少しでも安い航空運賃を提供することでビジネス・チャンスをつつと獲得した。当時、私が勤務したパン・アメリカン航空会社では営業マンが香港やロンドン、ホノ



ルなどのトレーニング・スクールで何度も tariffs の講習を受け、営業に役立つような訓練を重ねていた。実際の旅程にない架空のポイントを都市として組み込み、安い運賃を作成するなど、代理店側に納得していただける運賃を算出することが自分達の励みでもあった。

現在ではこのような苦勞をしなくてもコンピュータが旅程に従い、運賃を計算してくれる。簡単に効率よく作業が進み、時代の進歩を感じる。ただし、航空会社の営業マンと代理店との間に存在していた人情味、人と人のふれ合いがだんだん薄れてきている気がしてならない。

予約の状況はテレタイプで伝達

航空会社の営業にとって予約も欠かせない業務のひとつ。この予約業務にも40年前、コンピュータは導入されていません。他の航空会社も同じ状況であったと思いますが、各便の予約状況が常時テレタイプで入ってきます。その情報を予約台帳に記入、あるいは大きな支店は予約課の前方にあるボードに掲げ、その状況を見て電話で応答するシステムであった。

販売した座席はリザーベーション・マニュアルに従い、テレタイプを使って本社予約コントロールへ報告。また、自社以外の会社の座席を販売する場合はマニュアルに従い、それぞれの航空会社にテレタイプで通知をする。こうした作業は、非常に複雑、かつミスも起こりがちな状況にあった。間もなく、

ボーイング747型のいわゆる「ジャンボ機」が就航するようになり、大量輸送の時代を迎えた。この時代には、コンピュータの進歩なしでは作業が追いついて行かなかった事でしょう。



ミス・ユニバースを出迎える子供たち

世界の美女物語 大阪万博の一幕

1970年に開催された大阪万博にあわせ、ミス・ユニバース・コンテスト世界大会が大阪で開催された。世界の美女達が大阪に集まるこの機会に、大きなビジネス・チャンスが舞い込んだ。主催は朝日放送、協賛が三洋電機、高島屋、トヨタ自動車、雪印乳業等々、協力にパン・アメリカン航空会社という事で話がまとまった。約30ヶ国の代表が各国から羽田

に同じ日に到着。羽田/伊丹間をパンナムのB707型機に全員が搭乗し、伊丹空港近くの小学生達によるプラスバンドの出迎えを受けて、華やかに大阪入りした。

このビジネスが成立したのは良いが、びっくりするような要望が朝日放送から入った。当時の伊丹空港は、ボーディングステップを使用しており、定刻の運航であれば到着時



にうっすらと暗くなり始める。このため、テレビ撮影には具合が悪いので、羽田出発、及び伊丹到着時刻を1時間繰り上げて欲しいとの事だ。想像するに、現在のように照明器具が発達していなかったからかも知れない。

困ったあげく、パブリシティの重要性を強調し、本社スケジューリング担当者に無理を承知でその旨を依頼した。すると、あっさり「OK」のふたつ返事が返ってきた。はっきりと覚えてはいないが、当然の事ながら、各国からいろいろな便で羽田に到着後、乗り継ぎの時間に余裕があった事から出来た芸当でしょう。

この件についてはもう一つ、苦勞した事があった。各国から代表者が出席することから、それぞれの出発地が違うので、全員の航空運賃が異なる。今のようにコンピュータの運賃計算ではない時代である実情は上述の通りである。そこで1件ずつ、エージェントの相談にのりながら運賃計算の手助けをした。MCO (Miscellaneous Charges Order) を発行し、PTA (Prepaid Ticket Advice)、すなわち、前払い航空運賃の送金通知をする。所定のフォームに旅客名、住所、連絡先、航空運賃、運賃計算の内容等をタイプで打ち込み、その用紙をもとに、テレタイプで送信する。



(写真上)各国代表のミス・ユニバースが一同に介し、機体をバックに記念撮影(写真下)マーチング・バンドなどが先導し、ひときわ華やかなセレモニーであった

約30ヶ国のミス・ユニバース代表と付添い人のシャペロン、ミス・ユニバース本部からの代表者達を合すると相当な数のPTAを送付した。しかも、短期間のうちに仕上げなければならず、毎日、夜遅くまでグランドホテルの一角にあったパンナムのオフィスで働いたのもつい先日のような気がしてならない。苦勞の甲斐あって、世界の美女たちが伊丹に到着したときは、感激もひとしおであった。

その時、私はちょっぴり無理をしたのか、夜遅くオフィスで鼻血を出した。この事が、後日、朝日放送の担当者に知れ、当時の朝日放送の副社長へと伝わり、「よく頑張ってくれた」とお褒めの言葉を頂いた。それ以後、ミス・ユニバース日本代表選出大会には招待状を頂き、前夜祭のパーティに招待して頂いていることは楽しい思い出だ。

海外旅行ブーム創造への仕掛け

一般の人が海外旅行をする事は様々な面から困難であった時代。海外旅行への夢を与えてくれたのは、あのテレビ番組「兼高かおる世界の旅」である。世界各地のめずらしい景色や風俗、習慣そして文化をあたかも視聴者が体験しているような錯覚に陥る、兼高かおる嬢の何ともいえない口調の解説に感激したものだ。

確か放送は日曜日の午前11時頃からだったように覚えている。毎週、楽しみに待っていた番組であった。この番組の提供は三井グループ、協力はパンナムであった。後の海外旅行ブームに対するこの番組の貢献度

は、多大なものがあると言って良いのではないのでしょうか。今は興味本位の海外旅行番組は沢山あるが、「兼高かおる世界の旅」に見られた勉強になり、しかも楽しめ、海外旅行業界全体にプラスになるテレビ番組がもっとあって良いと思ひやみません。

パンナムがもう一つ海外旅行ブームへの仕掛けをしたのは大相撲へのトロフィ提供。当時、パンナム・ジャパンの広報部長だった紋付羽織はかま姿のデーブ・ジョーンズ氏による「Hyow-Show-Jaw」の発声が人気を呼び、あのNHKも彼が登場するまで放送し、番組終了となるのが常であった。



福井 功 (ふくい・いさお) 氏

生年月日：1937年3月28日

略歴：1960年 パン・アメリカン航空会社入社

1973年 西日本地区旅客営業部長

1982年 西日本地区支配人に就任

1986年 企業買収によりユナイテッド航空に移籍、名古屋営業所所長

1994年 大阪支店旅客営業部部長代理

1999年 ユナイテッド航空会社定年退職

海旅業界関西シニア会とは?

関西地区で海外旅行関連業界(旅行会社、航空会社、ホテルなど)に20年以上勤務した50歳以上の現役、OBで構成する任意の親睦団体で1990年の発足。現在約180名の会員が登録されており、業界の現役とOBの比率は4対6となっている。共通の趣味やテーマを通じて活発な活動を続けている。URL: <http://www.class-e-jp.com/senior/kai/>